

 <p>ボーイスカウト尾張東地区広報誌</p>	<p>①春日井第2団 50周年 ②各団の活動報告 ③世界スカウトジャンボリー</p>		<p>第6号 平成27年2月26日発行 日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 組織拡充委員会 広報部会 編集・発行 編集責任者 野村 典孝</p>
--	--	--	--

## ◇「春日井第2団 発団50周年記念事業完遂」

～困難を乗り越えて～

団委員 稲垣 剛

春日井第2団は、昭和39年に発団し、昨年、平成26年12月に50周年の節目の年を迎えました。この記念すべき年に、これまでの半世紀の活動を振り返り、次の50年に向けて出発すべく、記念夏キャンプと記念式典を開催しました。

計画開始は1年半前の平成25年6月でした。桑原洋平実行委員長の下、総務、資金、行事、式典の4部会を組織した実行委員会を発足させ、「温故知新」「未来に向けて」をスローガンに準備を進めました。

記念夏キャンプでは当初、海でのプログラムを計画し、平成26年8月に三重県多気郡の大淀海岸で開催することで進めていました。海ならではのプログラムでスカウトたちを楽しませよう、という実行委員のアイデアで、筏を使ったゲームや工夫を凝らしたエンターテインメントを盛り込んだ夕食会、夜の浜辺での50年の歴史を感じてもらうイベント、次の50年に向けて出発するためのセレモニーなど、盛りだくさんの力のこもったプログラムが完成しました。これまでの間、数多くの深夜に及ぶ実行委員会の開催や会場の下見・整備を繰り返し準備万端、あとは本番を迎えるだけの状態になりました。しかし、無情にも台風11号が接近、安全を最優先に考え、開催は不可能との団委員長判断により中止を決定しました。

これには、さすがに実行委員の落胆は大きく、意気消沈しました。しかし、すぐに気持ちを切り替え、8月は通常の実夏キャンプに変更、岐阜県瑞浪市の岳見高原キャンプ場で実施しました。その後、記念行事はデイに切り替え、9月に愛知県瀬戸市の定光寺キャンプ場で開催することを決定し、海で計画していた記念夏キャンプのプログラムを一部変更して実施

することにしました。残念ながら筏のプログラムは変更せざるを得ませんでした。既に計画されたプログラムを有効に活用して、見事、大成功に終わることができました。記念行事では、団のシンボルである「桜」と団の原動力である「結」をテーマに全体のストーリーを作り上げ、スカウトたちにも感動を与えることができたのではないかと思います。

怒涛の如く流れた大イベントを終え、つかの間の休息を経て、すぐ先の12月に待ち構えている、記念式典の準備に取り掛かりました。開催日は平成26年12月14日、会場は高蔵寺ふれあいセンターにて計画していましたが、これまた運命のいたずらでしょうか、衆議院議員総選挙の投票日と重なり、直前になって会場をお借りすることができなくなり、急遽、JA 高蔵寺支店レインボーセンターに変更して開催しました。式典には、ご来賓のほか、春日井2団のOB・OGのみなさんにもご出席いただき盛大に開催することができました。式典では、50周年を機にチーフを新調し、50年続いたチーフの交換式を行いました。デザインは現行のデザインをベースに「桜」と「結」を盛り込んだものにしました。茶話会にて昔話に花を咲かせていただいた後、昔のカブ隊を復活、藤江隊長（現団委員長）、中村副長（現副団委員長）、佐藤デンマザー（現事務長）、OB・OGのスカウトが大輪になり、現スカウトとともに、全員でカブコールを行いました。また、春日井第2団のスカウト出身の現役リーダーを紹介し、50年間春日井第2団を支えてきた原動力は何なのか、スカウトや育成会員のみなさまに感じていただけたのではないかと思います。

1年半の長きにわたる記念事業の計画であり、その間、幾多の困難がのしかかり本当に大変でした。しかし、実行委員長と団幹部の強いリーダーシップ、そしてそれに応える実

行委員・リーダーの行動力を改めて見せつけられた気がしました。まさにこれこそが、50年続いてきた春日井第2団の「結」の力を象徴する出来ごとだったのではないかと改めて感じたところです。これも50年の節目に神様が与えた試練だったのかもしれません。

最後に、春日井第2団は記念事業の締めくくりとして、これからも成長する団でありたいという願いを込めて、3月に団のシンボル「桜」の植樹を行います。次の50年に向けて桜と共に成長し、スカウトのために開花できるように活動していきたいと思えます。



上 9月記念大会      下 12月記念式典



#### ◇ 「バレンタイン企画チョコ作り！」

日進第2団 ビーバー隊

補助者 坂田 美樹

バレンタインデーを一週間後に控えた日曜日に、福祉会館のキッチンをお借りして皆でクッキングに挑戦しました。

今年のビーバー隊は大所帯です。3班に分かれて作ったのは、チョコまん、巨大チョコバー、チョコババロア、とチョコづくしです。この他にもカップケーキあり、チョコフォンデュ

ありの盛りだくさん！なるべく多くの工程を子ども達に体験させることと、いかに安全に楽しんでもらえるかが今回の課題でした。

ビーバーたちもエプロンに三角巾、マスクもしてやる気いっぱい。次々と仕事をこなす子に、丁寧に作業に取り組む子、食器洗いが好きな子に、とにかく早く食べたい子。いろいろな個性が集まって、皆で協力し合って、最後は揃って楽しいバレンタインランチとなりました。お持ち帰り用のお土産は、家族にあげるもよし、お友達にあげるもよし、ビーバーたちの可愛い「愛」をお届けできたら嬉しいです！



#### ◇ 「たのしかったイモほりとイモ料理」

春日井第8団 カブ隊

うさぎ 黒木 乃絵

私は、11月9日に春に植えたさつまいもをほって、イモりょうりを作りました。さつまいもをほる時のコツはまわりの土をほって、イモが見えてきたら少し引っぱって、そのイモの近くの土をとりのぞいて、とります。イモほりで、たのしかったことは、イモをぬこうとおもいきりひっぱたら、ポンとぬけて後ろにあったフェンスにおもいきりぶつかったことです。かなしかったことは、そのイモが小さかったことです。みんなは、大きなイモをとっていましたが、わたしがとったイモは小さいものばかりで、それもかなしかったです。イモのりょうりは9品作りました。さつまいものコロッケやイモごはん、さらに大学イモなどを作りました。考えなが

ら作るのは、とてもたのしかったです。最初はコロッケをどんな形にするか、考えていましたが、小さな丸にしました。そうすると、作りやすいし、早くできます。あとはコロッケに小麦こ、玉子、パンこをつけてあげました。おいしかったのは、イモごはん、トンじる、コロッケです。イモごはんはイモがあまくてホクホクしていました。コロッケは外がサクサクして中はホクホク、あまくておいしかったです。らいねんのイモほりは、フェンスにぶつからないようにして、もっとおいしいイモりょうりを作りたいと思いました。

#### ◇ 「天文学者に挑戦！」

大口第1団 カブ隊  
副長 伊藤 正人

11月15日～16日に一泊舎営をしました。初日、基本訓練を行った後、夕方からお母さんや兄弟も集まって、夕食をみんなで作って食べ、夜は天文学者の神話や星座について調べました。兄弟みんなで本を眺める姿がとても微笑ましい光景でした。二日目は、電車に乗って科学館まで行って、プラネタリウムをまだまだ見たいこと、体験したいことがあったけど、今度はお父さんやお母さんに連れてきてもらってくださいね！



#### ◇ 「もちつき大会」

大口第1団 カブ隊  
副長 石岡 健治

12月21日に団行事としてもちつき大会を

行いました。カブ隊は、ベンチャースカウトの教えでロープワークを練習して、簡単な小屋作りにチャレンジしながら、もちつきの順番を待ちました。杵が重かったけど、お父さんお母さんが手伝ってくれて、美味しいおもちができたので、おなかいっぱいおもちを食べました。小屋作りは少し時間がかかったけど、中に入ると暖かかくて、みんなで頑張って作った満足感でニコニコでした。



#### ◇ 「初めての冬舎営」

春日井第8団 カブ隊  
くま 齋藤 柚季

私は3日間にわたり、さまざまなスキー体験をしました。1日目はスノーシューをしました。雪の上を歩くだけだから、簡単と思っていましたが、だれも歩いたことがないところの雪はふわふわしていたので、深い所まで足が入ってしまい、歩きにくかったです。でも、初めてのスノーシューはすごくおもしろかったです。2日目はアルペンスキーをしました。スキー場に向かう途中、シカを4頭も見つけました。自然がいっぱいの雪山でした。アルペンスキーは初めてなので、スキースクールに入りました。最初は、すべる事がすごくむつかしかったけれど、先生が親切に教えてくれたので、少しずつすべれるようになりました。リフトに乗って雪山の頂上からもすべりました。一回も転びませんでした。頂上からのスキーは何回やっても楽しく、すべるコツもつかめました。来年もぜひ行ってうまくなりたいです。3日目は歩くスキー（ノルディックスキー）をしました。最初は、思うように

歩くことができず、ころんでばかりいましたが、歩いているうちに転ばなくなりました。山の奥まで歩いていくと坂があり、すべりおきる場所があったので、みんなですべりました。アルペンスキーと同じすべり方では前に進まないのが大変でした。でも何回もすべって、何回も転んでいるうちに、どのような姿勢にすれば、より遠くまですべる事ができるかが、わかってきました。そこで今度は急な、長い坂にもチャレンジしました。何回も尻もちをつきましたが、だんだんと遠くまですべれるようにになりましたが、あと、一歩のところまで転んでしまいます。次に行ったときには、最後まですべれるようになりたいです。私は夏の舎営しか体験したことがありませんでした。初めての冬の舎営は、ドキドキが沢山あり、とても良い思い出になりました。



#### ◇ 「凧作り」

犬山第5団  
CS隊長 杉本 京子

毎年12月の恒例になっている和凧作りは、以前の団委員長がたこの会の会員ということで、日本伝統の和凧を作る活動を取り入れています。カブ隊では「ダイヤ凧」といって和紙を三角に切って片方を裏返して張り合わせ、竹ひご二本を十文字に組んで骨にするという簡単な凧です。そこに絵を書いて約半日で完成します。一月には犬山・扶桑地区で凧上げ大会を開催します。絵の上手な凧には「デザイン賞」 高くあがった凧には「高く上がったで賞」という賞を贈ります。今までにおもしろかった凧では「成績が上がりますように」と書いた凧がありました。残念ながら

その凧は高く上がったで賞は取れなかったみたいですが、実際の成績は・・・？



#### ◇ 「新春スキー訓練」

犬山第5団

CS隊副長 杉本 知紀

我が団のスキー訓練は30年以上の歴史があると聞いています。自分もビーバースカウトの時から参加しています。犬5のスキー訓練は、スキー教室に入って訓練するのではなく、団の指導者からスカウトが教えてもらい、そのスカウトが成長して指導者になり、またスカウトに教え、伝えています。今年初めて参加したスカウト達も2泊3日の訓練を受けると最終日にはリフトに乗って自分で滑って下りれるようになりました。

数回スキーの経験があるスカウト達は上級コースを難無く滑れるまでに上達してくれました。来年のスキー訓練には上級班のさらに上の班を作らないといけないという、うれしい悩みがあります。



#### ◇ 「ハイキングの感想 (1)」

春日井第4団 カブ隊

1組 しか 佐野 翔琉

ぼくは少年しぜんの家でハイキングをしました。そのときぼくは思ったより短かったなあと思いました。はじめ25番てっとうに行く

と聞いて道が長いと思いました。だからまつぼっくりやどんぐりなどをひろっていこうと思いました。歩いていたらはじめのほうは道路の近くを歩いていきました。でもとちゅうで山にはいっていきました。そこでまつぼっくりやどんぐりをひろいました。ハイキングが終わって数を数えたら、まつぼっくりは4こでどんぐりは3こでした。楽しかったです。またやりたいです。

#### ◇ 「ハイキングの感想 (2)」

春日井第4団 カブ隊  
2組 しか 篠原 菖悟

11月22日から11月23日まで少年自然の家にとまりに行きました。11月23日の活動は25番鉄塔までハイキングに行きました。晴れていて紅葉がきれいでした。23番鉄塔から25番鉄塔までなのですぐ行けると思っていました。けれど25番鉄塔まで行くのは大へんでした。25番鉄塔に着くとけしきがきれいでした。しかも隊長からハッピーターンがもらえました。帰る時はみんなつかれている顔でした。石がゴロゴロしていてつまずきそうになったけど楽しかったです。

#### ◇ 「ハイキングの感想 (3)」

春日井第4団 カブ隊  
3組 しか 内山 祐輔

ハイキングをしました。25番てっとうまで登りました。はじめは山おくで遠いと思ったけど、登ってみるとあまり遠くありませんでした。帰る時のくだりは足場がわるかったのでころびそうでした。山には竹などがありました。歩いていたらとてもあつくなりました。道のとちゅうでキノコなどがありました。25番てっとうからみたけしきはとてもきれいでした。鳥の声もきこえていました。ハイキングは楽しかったです。またハイキングをしたいです。

#### ◇ 「ハイキングの感想 (4)」

春日井第4団 カブ隊  
4組 しか 松下 雪華

ハイキングは23番てっとうから25番てっとうまで見学の子もいて楽しかったです。でもとちゅうでおいてかれたりはやかたりい

ろいろありました。25番てっとうで子どもにハッピーターンをくれておとなはプリッツをもらっていました。帰りはゆっくりいきました。もうわたしたちはつかれきっちゃいました。いろいろけしきが見えたとし、おかしをもらったから楽しかったハイキングでした。

#### ◇ 「ハイキングの感想 (5)」

春日井第4団 カブ隊  
5組 しか 加藤 初彩

山に登ったとき、一番たいへんだったのがせなかにしょっているハバザックです。つかわぬい物をおろしたのですが重かったです。なぜならスカウトのモットーはそなえよつねに。ほとんどの物をおいていけず、重いハバザックをしょったまま、がんばって山を登りました。のぼりざかのはじめは竹がたくさんはえていました。くだりざかではかいだんがたくさんありましたが、かいだんがない場所はすべてとてもきけんでした。「かいだんもきをつけてね。」とデンコーチに言われて、かいだんもきをつけて下りました。どれもとてもつかれましたが、たいりよくをつけるためだと思いがんばっておりました。



#### ◇ 「うまくなったスキー」

江南第1団 カブ隊  
2組 野々垣 杏南

1月17日にカブスカウトで、スキーに行きました。そこは、岐阜県のアルコピアスキー場に行きました。はじめは、スクールに行ってみました。いがいと、できることに、びっくりしました。去年にくらべて、

きゅうなスベリ台みたいところが、たのしかったです。つぎに、かねをならしました。わたしはならせたけど、2人の男子がならせなかったの、ひょうじょうがおもしろかったです。また、スキーをしたいです。



1日目はみんなでハイキングをしました。ハイキングの途中で葉書にきれいな川のけしきの色エンピツでスケッチをして、お父さんに送りました。2日目の夜はキャンプファイアをしました。スタンプは失敗せずにおどれました。女子のスタンプもセリフをまちがえずにできました。とてももり上がってうれしかったです。3日目は竹トンボを使ってゲームをしました。ゲームには負けてしまったけど楽しかったです。いろいろなトラブルがあったけれどとても楽しい舎営でした。次は冬の舎営が楽しみです。



#### ◇ 「1月の隊集会「霧のエリュージヴ」

江南第3団

カブ隊長 日比野 良治

エリュージヴって難しい言葉ですが、elusive【英】：捕らえ所のない、わかりにくい、と言う意味です。そこから転じて（かなり...）、一宮のスケートと隣の真澄田神社初詣がてらフィールドビンゴ。公共交通機関の利用のためAM7:01のバスでオープン前の早朝スケート教室に参加。その後、神社に移動してお参りを終えると、謎の巻物登場。境内の中で写真の位置を探して謎を解くゲームを展開。副長が張り切って作成した結構難易度の高い内容でしたが、各組謎を解くことができました！



#### ◇ 「楽しかったスキー」

江南第1団 カブ隊

2組 橋田 夏菜

1月17日に岐阜県のアルコピアスキー場へ行きました。最初はすごくこわくて、びびってたけど、スキーの先生が分かりやすく教えてくれて、なんとかうまくなって、どんどんスキーをやりたくなって、何どもやってしまいました。まだ、明日もスキーがあるので、明日は、今日よりもた〜くさんすべりたいです。明日が楽しみです。



#### ◇ 「楽しかった夏の舎営」

江南第1団 カブ隊

2組 橋田 夏菜

8月1日～3日に、長野県にある松川青年の家へ2泊3日の舎営に行きました。

### ◇ 「楽しかったスキー」

春日井第8団 カブ隊  
うさぎ 黒木 乃絵

私は、1月10日から12日まで2はく3日でスキーくんれんに行きました。さいしょはスノーシューをしました。スノーシューをはいて、雪の中を歩くれんしゅうです。おもしろかったことは、自分の左足を自分の右足で踏んでしまい、バランスをくずしてころんでしまったことです。つぎの日に、スキーをしました。私はスキーがはじめてでしたが、うまくすべれました。初めてのリフトは、すごく高くてドキドキして、こわかったけど、2回目の時にはぜんぜんへいきでした。うれしかったことは、上から下まで1回もころばずにすべって下りてくることができたことです。さいごの日に、歩くスキーをしました。目てきちまでの道は長かったので、たいへんでした。目てきちについて、スキーをはずしたら、ズボッと足がはまりました。さかをのぼったり、すべったりしました。さかをすべれるようになってうれしかったです。まっすぐな道でズッコケてスキーの板でおしりをぶっていたかったです。



### ◇ 「スキー訓練」

春日井第8団 カブ隊  
くま 河村 英臣

高遠青少年自然の家で、スキー訓練のための舎営をしました。まず、スノーシューで雪原を歩く体験をしました。おもしろかったので、誰も雪をふんでいない所ばかりを歩きました。2日目は朝早く起きて、スキーに行きました。たくさんすべったので、お昼のお弁当がとて

もおもしろく感じました。最後の日はノルディックスキーをしました。山の奥の目的地にはたくさんの雪があったので、1日目に作ったカマクラよりももって大きいものを作ろうということになり、板をはずして歩き始めたら歩くほどに足が雪の中にうまっていくので、びっくりしました。それで、カマクラ作りはやめて、坂をすべって、どこまで行くことができるか、ということをしました。バランスをとるのがむつかしく、転んでばかりでなかなか長い距離をすべる事はできませんでした。3日間いろいろなスキーができて、とても楽しかったです。夏の舎営が楽しみです



### ◇ 「スノーシューハイキング」

瀬戸第6団 ボーイ隊  
副長 野村 勝美

1月17日から18日にやぶはら高原へスキー訓練に行きました。スキー訓練と言っても初日はスノーシューハイキングで二日目にスキー訓練をしました。スノーシューハイキングは初めてのことで、現地の『NPO法人木曾川・水の始発駅』のご協力により実施することができました。当日は前日からの雪でとても柔らかい雪が森の中一面に広がっていました。まだ誰も踏んでいない雪の中を歩くのは気持ちのいいことでした。ただ残念だったのは、降り積もった雪に動物の足跡がかき消されてしまっていたことでした。それでも現地スタッフの方が何とかリスの足跡を見つけて教えてくださいました。

普段の活動では体験することができない貴重な体験をすることができました。



### ◇「スキー訓練」

江南第1団  
ボーイ隊一同

【ワシ班】昨年、板が取れてしまったり、コケてしまったりしていた最難関コースをミス1つなく通り抜けることができました。毎年毎年、スキーをやるにつれ、難しいコースも簡単になってくるようになりました！これからもスキーの腕を磨き、さらに上達できるよう頑張りたいです。

【フクロウ班】風が強く、雪が降っている中、上級者コースへ行き遭難しかけ、死ぬかと思うほど大変でした。最後は板を外して降りてきました。雪山は怖いとつくづく思いました。夜みんなで食べたご飯はとても美味しかったです。2日目はよく晴れ、楽しく時間ギリギリまで滑りました。



### ◇「雪中キャンプ」

江南第1団

V S 隊 納堂聖也・中村信吾

1/17、18日に岐阜県のアルコピアスキー場で雪中キャンプを行いました。設営の時には、強風でタープが飛んでいたり、場所の移動を迫られたりして、初日は1度も滑ることができませんでした。2日目は天候にも恵まれ、

スキーを楽しむことができました。最低気温は-4℃で、経験したことのない寒さでしたが、その時に食べた赤から鍋やお茶漬は、忘れられない味となりました。また、何度も行ったことがあるキャンプも雪の中ではかなり大変なことを、今回の雪中キャンプで教わりました。今回得たスキルや知識を活かして、また来年も取り組みたいと思います。



### ◇「第23回世界スカウトジャンボリー」

世界スカウトジャンボリーは、4年に1度、様々な国を開催地として世界中からスカウトが集まる国際キャンプ大会です。2015年に山口市阿知須・きらら浜で開催される本大会には、世界162の国と地域から約3万人の青少年が集まって約2週間にわたって開催されます。また、世界スカウトジャンボリーの前後に、世界からやってきたスカウトたちは日本各地に分散してホームステイや日本探訪を行います。わが国の最先端の科学技術や、日本の伝統芸能、魅力的な文化、国際的な協働や連携など日本そのものを体験して、自分たちとの関連性、恩恵、課題などについて認識を深める機会となります。

(日本では1971年以来、44年ぶり2度目の開催)

【日時】2015年7月28日(火)～8月8日(土)

【会場】山口市阿知須・きらら浜(286ha・東京ドーム約60個分の敷地面積)他

【テーマ】和a Spirit of Unity

【参加者】世界162の国と地域から14～17歳のスカウト、18歳以上のスタッフや指導者計3万人

プログラム：地球開発村、文化、自然、水上活動、科学、ピースプログラム、地域社会などを柱にして2週間のキャンプ生活を通じて、文化・言語の違いを乗り越えた新しい仲間との出会い、新しい挑戦。伝統と最新技術、日本文化への理解などを深めます。